

農業の新しい技術

No. 659 (平成25年5月)
分類コード 01-04
熊本県農林水産部

県育成白ニガウリ F₁ 品種「熊本 VB04」の特性

農業研究センター 農産園芸研究所野菜研究室
担当者：梶山幹司

研究のねらい

近年ニガウリは、健康野菜の一つとして、注目を浴びている。国内で流通するのは緑ニガウリが大半で、白ニガウリは、一定の需要はあるものの産地がない。また、市販の白ニガウリは、本県で普及する緑ニガウリに比べて収量が少ない。そこで、今後のニガウリ消費の安定や拡大を図るために、多収の白ニガウリを育成する。

研究の成果

「熊本 VB04」は以下の特徴を有する。

1. 可販果収量は「白れいし」（タキイ種苗株式会社・白）に比べて多収であり、「えらぶ」（八江農芸株式会社・緑）とほぼ同等の収量である（図1）。
2. 雌花節率は60%程度であり「白れいし」に比べて高い（表1）。
3. 果実色は白色で、果実の形状は肩が張る紡錘形である（写真1）。
4. 果実の大きさは「白れいし」に比べてやや長く細い（写真1、表1）。

普及上の留意点

1. 半促成栽培に適する品種である。雌花節率が高いため露地栽培では、訪花昆虫を利用する交配を主とする場合は、変形果の割合が増えるため不適である。
2. 本品種は、雌花が連続して着生しやすいため、連続した節への交配は草勢低下に繋がるので避ける。また、交配開始時期に雄花不足が予想されるため、他品種の雄花を使用する。この時、雄花は白品種である必要ない。
3. 本成果は、着果節位20節以上、概ね4節に1果の結果に基づくものである。
4. 草勢が強い時に果実上部が薄い緑色になることがある。
5. 収穫目安は、果径6cm程度で、果皮につやがでてからとする。交配から15～20日後が目安である。

[具体的データ]

熊本県農林水産部

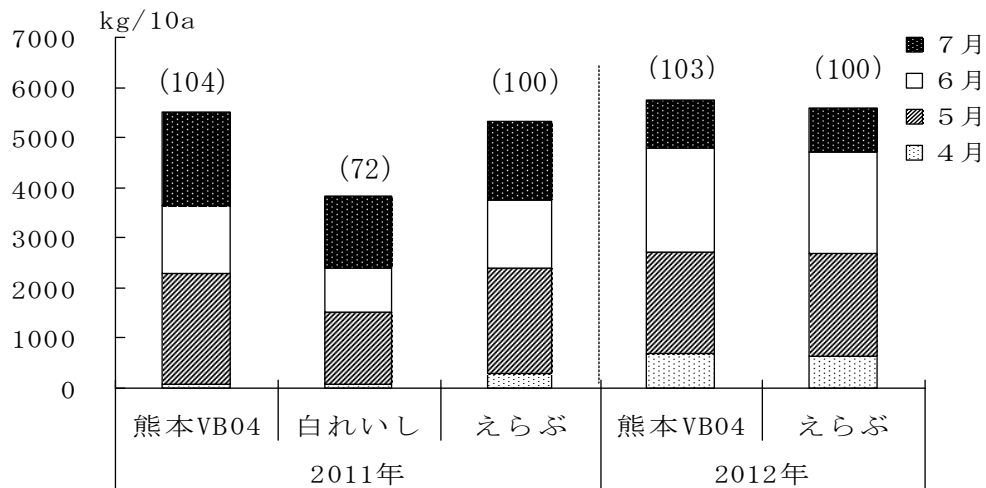


図1 半促成作型の可販果収量

※括弧内数字については、各年ともに「えらぶ」を100とした指数

2011年 (定植: 2月20日、収穫期間: 4月25日~7月31日)

2012年 (定植: 2月13日、収穫期間: 4月23日~7月30日)



「熊本VB04」 「白れいし」
写真1 育成白ニガウリ品種の果実形状

※スケールは10cm

表1 性表現および果実特性 (2011年)

品種	雌花節率 ^{..} (%)	可販果 1果重 (g)	果実長 (cm)	果実径 (cm)	果皮色 ^{..}		
					L*値	a*値	b*値
熊本VB04	66.0	290	21.4	6.3	71.2	-2.2	11.7
白れいし	27.3	299	19.3	6.6	66.9	-10.2	22.8

注1) 子づる3本仕立て、初期第30節および摘心位置から下位20節の着生花節を調査

注2) ミノルタCR-310で測定 L*値: 明度 100(白)~0(黒)、a*値: +(赤)~- (緑)、b*値: +(黄)~- (青)